

(2) メーリングリストによる周知

国内において、メーリングリストでの連絡を各関係機関に依頼した。

広報依頼先は以下の通り。

- JIPFA
- GFVC
- アフリカビジネス協議会
- アフリカビジネス振興サポートネットワーク
- アフリカ日本協議会
- 公益社団法人 農業農村工学会
- 一般社団法人 海外農業開発コンサルタンツ協会
- 農業データ連携基盤協議会 WAGRI
- 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
- 一般社団法人 日本農業機械工業会
- 公益社団法人 国際農林業協働協会 (JAICAF)
- 一般社団法人 日本農業機械化協会
- 一般社団法人 全国農業協同組合中央会
- 公益社団法人 日本農業法人協会

(3) バナー

セミナー開催にあたり、現地参加者への広報コンテンツとして、バナーを作成し、グリーンゾーンの農林水産省ブースに2022年11月6日～12日まで設置した。



図 27 農林水産省ブース前のバナー



図 28 広報用バナー詳細

(4) 日本防災食品の配布

農林水産省ブース及びセミナー参加者への配布物として、食料安全保障の観点から、日本の技術力のアピールをするために、防災食である缶詰とアルファ米を使用した日本食品 4 種を配布した。配布物の詳細は表 4 の通り。

表 4 配布した 4 種類の防災食

製造者	川商フーズ	サトウ食品	尾西食品	
商品名	GEISHA WHITE MEAT TUNA	サトウのごはん	オニシのビリヤニ	オニシのナシゴレン
商品画像				



図 29 4 種の防災食が農林水産省ブースにて展示されている様子

3.2 サイドイベントウェブページの作成および運営

3.2.1 サイドイベントウェブページの概要

第 7 回アフリカ開発会議 (TICAD7) 以降の農林水産省の事業について、日本語、英語、フランス語、アラビア語で 15 枚のパネルに取りまとめた。取りまとめたパネルは、2022 年 11 月 6 日 (日) から 18 日 (金) まで、エジプトのシャルム・エル・シェイクにおいて国連気候変動枠組条約第 27 回締約国会議 (COP27) 会場および Web ページにて展示を行った。



図 30 日本語版のパネル



図 31 英語版パネル



図 32 フランス語版のパネル



図 33 アラビア語版のパネル

COP27では、会場のブルーゾーンおよびグリーンゾーンの2箇所、パネルの展示を行った。テレビモニターに英語のパネルを映し出し、セミナー実施場所のブルーゾーンおよび農林水産省殿のブースにてパネルの投影を行った。



図 34 グリーンゾーンでの展示

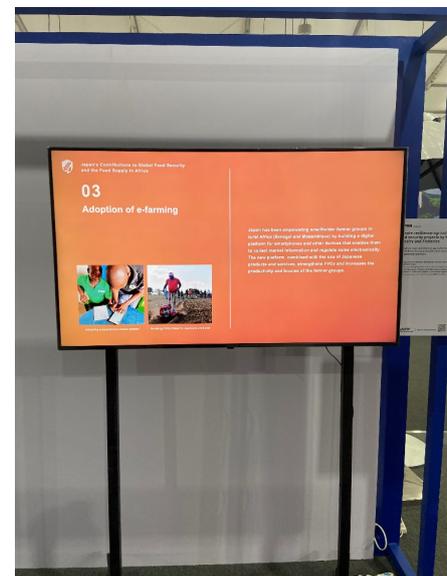


図 35 ブルーゾーンでの展示

上記のパネルを Web ページ化し、オンライン上で日本語、英語、アラビア語およびフランス語の各言語で閲覧できるようにした (図 36)。またトップページにはサイドイベントを紹介するバナーを設置し、イベントの集客を行った。



図 36 作成した Web ページ (URL : https://icnet-service.com/event_20221112/)

4. まとめ

本業務の目的は、COP27 の機会を捉え、これまでの農林水産省の成果や今後の協力の方向性を広く共有し、我が国のアフリカ協力におけるプレゼンス向上を図ること、「食料安全保障」と「持続可能な農業」の2つをテーマに、農林水産省のこれまでの取り組みを広く認知させ、我が国の国際社会におけるプレゼンスの向上を図ることであった。その目的に向けて、本事業では、セミナー開催に向けた広報活動、サイドイベントウェブページの作成及びセミナーの開催運営を実施した。

広報活動では、SNS 広告を活用して、各セミナー200名の目標集客数に対して、214名の参加を募ることができた。60名からの参加者からアンケートを収集し、セミナーの満足度では、約70%の回答者が満足であったとの回答をしている。また感想の中には、「COP27において日本の貢献を十二分に示していただいた。」や「アジアや南米は世界にプラスの影響を与えているので、この分野で真似をしたいと思っている。」など、日本の持続可能な農業に対するプレゼンスの高さを評価する感想も挙げられていた。

サイドイベントウェブページの作成及び運営では、TICAD7以降の農林水産省の事業について取りまとめたパネルをCOP27会場およびWebページにて展示を行うことで、農林水産省ブースに来場した約1,000名⁶、またCOP27会場参加者、Webページ閲覧者などに広く共有できた。

以上のことから、本業務にて、COP27という国際会議の場において農林水産省のこれまでのアフリカ協力の取り組みを広く認知させ、我が国の国際社会におけるプレゼンスの向上を図ることができた。

⁶ 国連気候変動枠組条約第27回締約国会議（COP27）の結果
https://www.maff.go.jp/kanto/kikaku/midori_syokuryou/attach/pdf/setsumeikai_annai-10.pdf